



大門小だより

2月号

平成31年1月29日

大門大好き いい仲間 進んで学ぼう 元気な子

横浜市立大門小学校



春を見据えて

校長 佐藤 峰子

1月の三連休明けから、横浜市内の学校で、インフルエンザ・熱による欠席が急増し、感染予防のために学校・学級閉鎖を行ったところが多くありました。本校も同じような傾向にあり、保護者の皆様へ注意喚起のお知らせを配布するとともに、校内の活動で、全校または学年という集団での活動を見合わせるようにしました。併せて、手洗い・うがい・教室の換気等の予防策の徹底と、食事や睡眠をしっかりとするよう子どもだけでなく職員にも話しました。インフルエンザの嵐が終息するまで、保護者の皆様のご協力を引き続きお願いいたします。

年明けの授業再開から、書初め等の正月行事を行い、その後のインフルエンザ対応に追われているうちに、2月「如月」を迎えようとしています。「一月行く（住ぬる） 二月逃げる 三月去る」といわれていますが、本当にその通りだなと実感する日々でした。

2月に入ると、3日の「節分」、翌日の「立春」、19日の「雨水」と季節を告げる言葉が続きます。「節分」や「立春」のように一般には知られていないようですが、「雨水」は、農業に従事する人が多かった時代に、大切な節目の日となっていました。「雨水」は、空から降るものが雪から雨に変わり、雪がとけ始め、寒さも峠を越えて弱まってくるころを意味します。南の方では、春一番が吹くところもあるようです。農家では、この日を農耕の準備を始める目安としてきました。

3月の「啓蟄」に向かって、動物や虫たちは、今厳しい冬の寒さや雨風に耐えながら、やがて来る春に備えて力を蓄えています。木々も同じように、寒さに耐えながら春に芽吹くための準備を着々と進めています。寒さが厳しければ厳しいほど、動植物たちは力を蓄え、待ちわびた春の訪れとともにその力を発揮します。動植物の新しい生命の息吹は感動を呼びます。私たち人間にも同じことが言えるのではないのでしょうか。人も雨風に耐え、こつこつと努力を重ね、やがて花開くときを迎えるのです。

学校は、学年のまとめの時期を迎えています。7日（木）・8日（金）には、市内小・中学校で、学力・学習状況調査が実施されます。この調査は、横浜市独自のもので、本年度学習した国語・社会・算数・理科の内容を、子ども一人ひとりがどの程度理解しているかを調べるものです。併せて生活意識調査も実施されます。

新しい学年に向けた取組も進められています。1年生は、地域の幼稚園・保育園の年長さんを学校に招待し、4月からの学校生活に困らないように、期待をもって入学できるように、学校を案内します。子どもたちは話を重ねて、ランドセルを背負わせにたり、教科書やノートを見せたりという活動を考えているようです。活動を通して、1年生は、お兄さん・お姉さんになる喜びを感じることでしょう。6年生は、卒業に向けた様々な活動を進め、忙しい日々を過ごします。寒い日はまだまだ続きますが、春はそこまで来ています。春を見据えて、残り2か月前向きに過ごしたいと思います。